

様式第 9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
北薩地域	阿久根市、出水市、長島町	平成 2 6 ~ 令和 2 年度	平成 2 6 ~ 令和 2 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※1) (平成24年度)	目標 (割合※1) (令和3年度) A	実績 (割合※1) (令和3年度) B	実績/目 標※2	
排出量	事業系 総排出量	9,814t	8,636t (-12.0%)	9,785t (-0.3%)	2.5%
	1 事業所当たりの排出量	2.39t	1.95t (-18.4%)	2.23t (-6.7%)	36.4%
	生活系 総排出量	19,153 t	17,070t (-10.9%)	17,144t (-10.5%)	96.3%
	1 人当たりの排出量	185.03kg/人	164.42kg/人 (-11.1%)	181.22kg/人 (-2.1%)	18.9%
合 計 事業系生活系総排出量合計	28,967t	25,706t (-11.3%)	26,929t (-7.0%)	61.9%	
再生利用量	直接資源化量	1,999t (6.9%)	3,030t (11.8%)	1,323t (4.9%)	-40.8%
	総資源化量	3,295t (11.2%)	4,513t (17.3%)	3,476t (12.9%)	27.9%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	— MWh	4,503MWh	5,707MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	3,970t (13.7%)	3,196t (12.4%)	3,731t (13.9%)	-15.4%

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)を記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (令和 年度)	目 標 (令和 年度) A	実 績 (令和 年度) B	実績/目 標※3
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※3 (実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)を記載

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	有料化	組合及び構成市町	排出抑制や再利用の推進のため料金体系や施設使用料の見直しの検討	H26～R2	令和3年4月1日に料金体系及び施設使用料を100kgごと300円から10kgごと60円に見直しを行った。
	12	環境教育、普及啓発、助成	組合及び構成市町	①環境出前講座、リサイクル講座及びリサイクル祭りの開催 ②学校や地域社会と連携した教育啓発活動 ③集団回収の継続的な実施やフリーマーケット等の活用 ④分別収集・再生利用の方策に係る関係団体との協議・調整 ⑤「環境美化条例」等や「環境美化推進員制度」による環境美化マナーなどの周知徹底	H26～R2	公民館等での出前講座や広報誌を通じて啓発活動を実施した。また、組合では年1回リサイクル祭りを開催し、リユースの推進、啓発活動に取り組んだ。
	13	マイバック運動・レジ袋対策	組合及び構成市町	地域内の商工会議所等と協力し、マイバック運動等の推進	H26～R2	広報誌を通じて、マイバック運動の啓発を実施した。令和2年7月からはレジ袋有料化が始まり、レジ袋の削減が進んだ。
	14	生ごみの減量化	組合及び構成市町	「生ごみ容器購入費補助金制度」を継続し、生ごみの排出量を抑制	H26～R2	出水市及び長島町では、生ごみ処理機器等の購入補助金制度を継続し、また、キエーロの設置を進め、生ごみの排出量を抑制した。 なお、阿久根市では生ごみ堆肥化事業に取り組み循環型社会の推進とごみ減量化に努めた。

処理施設の整備に関するもの	1	ごみ処理施設整備事業	組合	ごみ処理施設の整備	H29～R2	令和3年4月にごみ処理施設（環境センターエネクリン北薩）の供用を開始した。
	2	最終処分場整備事業	組合	最終処分場の整備	H28～R1	令和2年4月に最終処分場の供用を開始した。
施設整備に係る計画支援に関するもの	21・22	1及び2の計画支援事業	組合	技術支援、基本計画、・設計、生活環境影響調査、発注仕様書作成及び実施設計、測量、地質調査など	H26～H29	計画どおりに各事業を実施し、令和2年4月に最終処分場、令和3年4月にごみ処理施設（環境センターエネクリン北薩）の供用を開始した。
その他	31	廃家電及び小型家電のリサイクルに関する普及啓発	組合及び構成市町	関係団体や販売店等と協力し、住民への普及活動	H26～R2	広報誌を通じて廃家電リサイクルの普及啓発を図った。小型家電リサイクルについては、特に実施しなかった。
	32	不法投棄に対策に関する事項	組合及び構成市町	パトロールの強化や外灯の設置など、不法投棄防止の推進	H26～R2	広報誌を通じての啓発活動や不法投棄看板の設置を実施した。また、パトロールを実施し不法投棄防止を推進した。
	33	災害時の廃棄物処理に関する事項	組合及び構成市町	地域防災計画を踏まえた連携体制の構築	H26～R2	地域防災計画の見直し及び災害廃棄物処理計画の策定を行い、災害廃棄物処理体制を構築した。

3 目標の達成状況に関する評価

阿久根市、出水市、長島町及び北薩広域行政事務組合は、ごみ処理基本計画において、①ごみの発生抑制及び再使用の促進、②適正な資源化の推進、③廃棄物の適正な処理・処分を目標として、ごみの減量化等を推進してきた。

目標達成状況については、以下のとおり評価している。

(ごみ処理)

■排出量

全ての項目で目標を達成することができなかった。事業系家庭系総排出量の目標25,706tに対して実績は26,929tであった。

特に事業系総排出量が、現状の平成24年度に対して平成29年度まで排出量が増加していたものの、北薩広域行政事務組合で実施していた展開調査による指導等により、不適正なごみの搬入抑制が進み、その後減少に転じている。また、生活系排出量は目標に僅かに届かなかったものの、確実な排出量抑制が進んでいる。

■再生利用量

再生利用量も目標達成することができなかった。直接資源化量については、民間事業者による古紙回収ボックスの設置等により、資源化量は現状の平成24年度よりも減少し目標に達しなかった。総資源化量は、目標には届かなかったものの、阿久根市の生ごみ堆肥化事業により総資源化の割合は上昇した。

■最終処分量

最終処分量も目標達成することはできなかった。ごみの排出量が減らなかったことが要因と思われる。

(都道府県知事の所見)

(ごみ処理)

ごみ処理については、目標達成に向けた各種施策等の実施により排出量の抑制等が進んでいるが、目標達成には至らなかった。

目標達成に向けて、別途改善計画書を提出してもらい、改善策の実施を求めることとする。